

2章 環境教育プログラムのプロトタイプとしての「3R 検定」「3R・低炭素社会検定」の実施

2.1 検定の概要

環境教育プログラムのプロトタイプ開発は、本研究の大きな柱である。3R の知識を体系化し、網羅的に盛り込んだ「3R 検定公式テキスト」を作成し、2008 年度（初年度）に第一回 3R 検定、2009 年度に第二回 3R 検定を実施した。各回ごとに、一般に知識・情報が不足していると考えられるポイントが判明した。また、初年度の調査より、リーダー養成にあたっては、3R と関連する低炭素社会分野を強化するニーズがあると判断した。そこで、それらに対応する知識、更新された情報・データを収集し、2010 年 10 月に「3R・低炭素社会検定公式テキスト」として完成させた。それをベースに、環境教育プログラムのプロトタイプ改良版として、主に地域において「ごみ減量・3R」行動と「省エネ・低炭素社会」行動を指導するために必要な知識レベルを問う検定プログラム（第三回 3R・低炭素社会検定；各 100 問・4 択）を作成・実施し、その展開可能性や有効性等を検証した。

なお、3R・低炭素社会検定（そのもの）については、研究とは別に、約 80 名からなる 3R・低炭素社会検定実行委員会を立ち上げ、関西・関東・九州・東北・中部・北陸地域を中心とした態勢で準備や広報を進め、第三回は、京都・大阪・神戸・関東（東京）・九州（福岡）・東北（仙台）・中部（名古屋）・北陸（鯖江）会場にて実施した。

なお、受験者には、試験終了後、アンケート調査票を配布し、協力（その場で提出するか、後日提出するか）を呼びかけた。

2.2 第一～三回検定の実施及びその受験者・合格者について

3R を中心とした環境教育プログラムのプロトタイプとしての「第一回 3R 検定」（2009 年 1 月）、「第二回 3R 検定」（2010 年 1 月）の結果を分析・検証した上で、精査・改善した「第三回 3R・低炭素社会検定」を 2011 年 1 月 9 日に、京都・大阪・神戸・関東（東京）・九州（福岡）・東北（仙台）・中部（名古屋）・北陸（鯖江）会場にて実施した。受験者や得点等は、表 2-1 に示す通りであった。合格点等は、得点分布（図 2-1）などから設定した。

回答結果の分析より、正答率の高低傾向や正答率の低い設問などが明らかになり、情報の普及度合いを考える上で、参考になる結果も得られた。

また、受験者へのアンケートより集計した受験者の属性は図 2-2 に示す通りである。全体には会社員の割合が高いが、様々な分野から受験者が得られ、幅広いニーズがあることがわかった。

表 2-1 検定受験者や合格点

	第一回	第二回	第三回	
	3R 部門	3R 部門	3R 部門	低炭素社会部門
会場	京都・大阪・関東（東京）	京都・大阪・神戸・関東（東京）・九州（福岡）	京都・大阪・神戸・関東（東京）・九州（福岡）・東北（仙台）・中部（名古屋）・北陸（鯖江）	
実施日	2009 年 1 月 11 日	2010 年 1 月 10 日	2011 年 1 月 9 日	
受験者	1,488	647	544 人	454 人
平均	80.9 点	74.2 点	75.5 点	71.0 点
合格点	70	65	65 点	60 点
リーダー得点	90	90	90 点	90 点
リーダー人数	358	61	33	48
たまご人数	919	452	425	310
合計合格者数	1,277 人	513 人	458 人	358 人

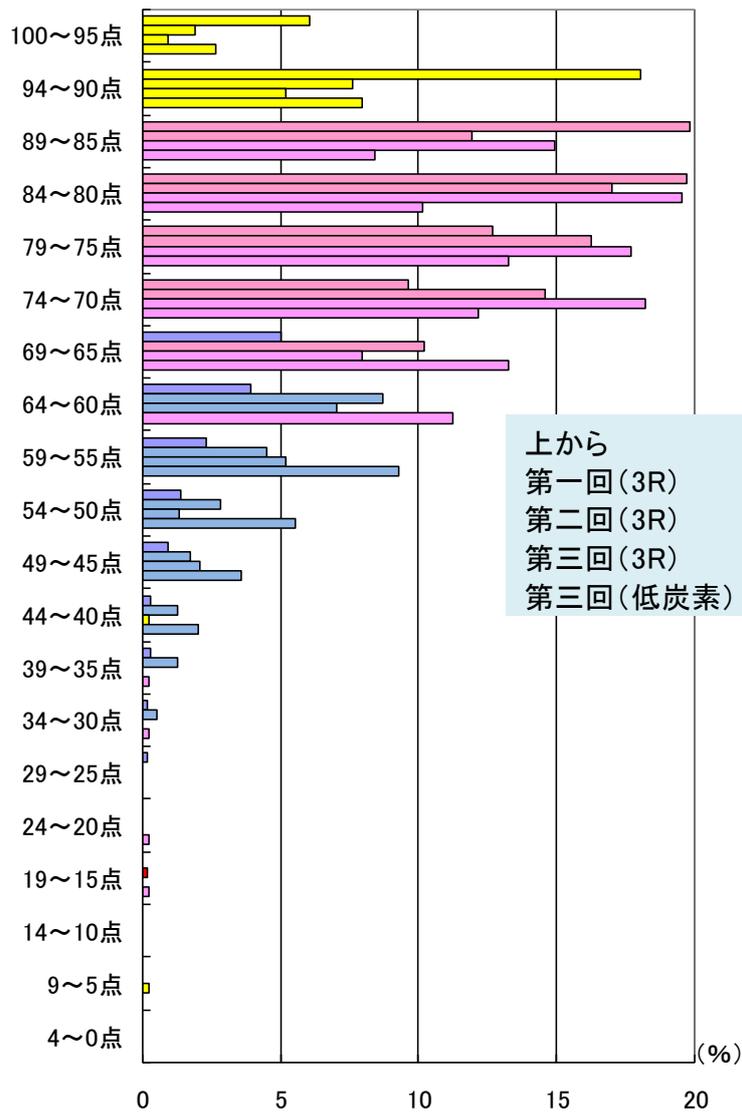


図 2-1 「3R 検定」「3R・低炭素社会検定」の得点分布

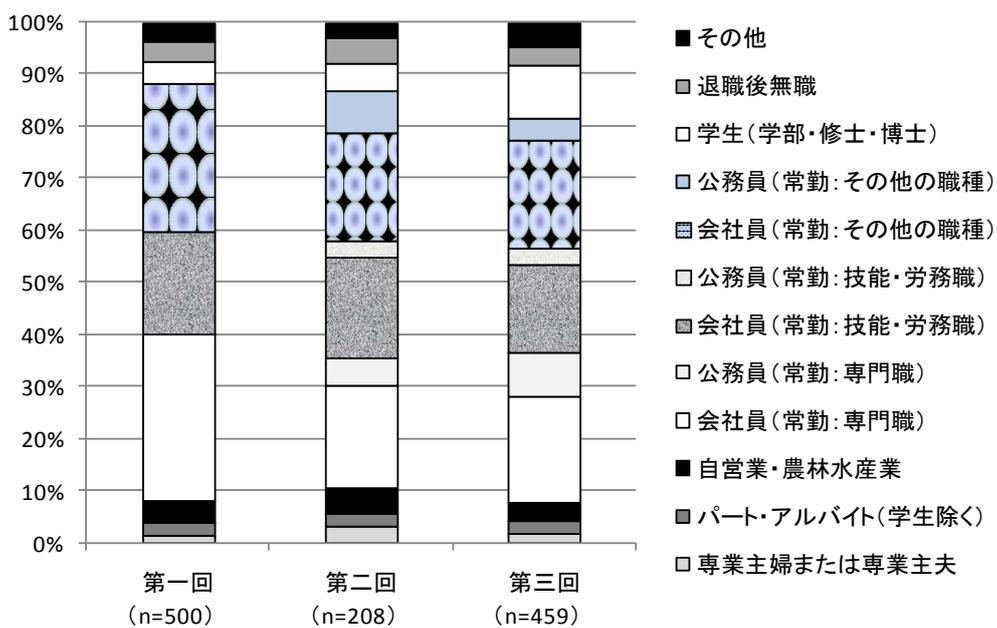


図 2-2 検定受験者の属性(職業) ※終了後のアンケート結果より